

# グッドデザイン・ニューホープ賞に入選

## 環境の変化に 呼応する建築



左から佐々木優菜さん、小田成菜さん、立花一貴さん、  
村重宏輔さん、藤原遼大さん(松崎明日花さんは当日都合により欠席)

# 若い力

「制作期間は大変だったが、みんなで努力したあの時間が報われてよかった」と話すのは、広島工業大学環境学部建築デザイン学科の杉田宗ゼミ明日花さんの6人。「2もその一環で制作され

025年度グッドデザイン・ニューホープ賞」に

「AEV Pavilion」(写真)が見事入選を果たした。

今回のテーマは「建築にかかわる空間情報(気温や湿度、気圧、日射量など)をデータとして捉えて可視化すること」。

「AEV Pavilion」は動く建築物で、動きは主に2つ。外側に複数ついているパネルが回転し、全体で面や点と変化する動きとA型木材フレームの足元にタムを配置し、フレームの高さを変える動き。パビリオンにはセンサーが

ついでおり、日差しの強さによってパネルが開閉時の高低によってフレームの高さを変え、パビリオン内の空間を一定に保ち、建築を環境の変化とともに動く動物として捉えた作品は「コードを組むことやだ。メンバー6人の役割は小田さん、立花さん、佐々木さんがデザイン、藤原さん、村重さん、松崎さんはプログラムを担当した。

受賞の連絡を受けた際、チームでリーダーを担っていた小田さんはある壊れた3Dプリンターを再利用する追加データがあり、分解してギアが使用したがギアが

ぶつかり、そのたびにうまく回らず「丸2日ぐう動かない原因を考えただけの時間がとにかく大変だった」と振り返る。小田さん、立花さんは最後にゼミ生が受賞したことについて杉田教授は「ゼミの中で設けたテーマに沿って考え、苦労

「動く建築」は技術の発達だけでなく外部からも評価を加えて外部からも評価され、学生の苦労が報われ、自分が活躍できるような

「動く建築」は技術の発達だけでなく外部からも評価を加えて外部からも評価され、学生の苦労が報われ、自分が活躍できるような

「動く建築」は技術の発達だけでなく外部からも評価を加えて外部からも評価され、学生の苦労が報われ、自分が活躍できるような



「AEV Pavilion」